

令和7年度生物資源研究センター成績報告会

特別講演

『米のタンパク質研究から学んだこと～資源研での活動を振り返って～』

基礎研究部 理事 増村 威宏
ますむら たけひろ

お米は私たちにとってはデンプンの供給源、すなわちエネルギー源です。しかし、お米には約7%のタンパク質も存在し、有用なタンパク源にもなっています。ここでは、演者が資源研で長年取り組んできたお米のタンパク質に焦点を当て、その合成と蓄積機構について解説し、タンパク質がお米の味や加工品の特性に関わっていることを紹介します。

研究報告

『「夏の暑さにも負けぬ丈夫な」酒米品種を目指して』

応用研究部 主任研究員 吉永 真
よしなが まこと

京都府オリジナル酒米品種「祝2号」は高温障害により品質が低下し、生産者の買取単価や酒造適性に影響を及ぼしています。高温に強い酒米品種を目指して、育種の素材となる品種の探索や選抜を効率化するDNAマーカーについて報告します。

『緑肥活用のススメ！ 緑肥がもたらす虫害、病害及び雑草害抑制効果』

応用研究部 主任研究員 徳丸 晋虫
とくまる すいむ

緑肥には、既に土壤病害および雑草害の軽減効果が知られています。一方で、演者らは、緑肥をすき込むことで、後作のイモムシ類の被害軽減効果を発見しました。本講演では、イモムシ類、土壤病害および雑草害の軽減効果について紹介します。

ポスターセッション

①金時ニンジンの根の生育とリコピン関連遺伝子の関係

基礎研究部 久保 中央
くぼ なかお

②中食需要に対応した生産性の高い金時系高リコピンニンジン新品種の育成

応用研究部 小川 昂志
おがわ たかし

③エダマメ新品種‘夏どり丹波黒3号’の収穫適期予測

応用研究部 三村 裕
みむら ゆたか

④大納言小豆の品種育成～大粒でウイルス病に強い株の選抜～

応用研究部 鴨志田 徹也
かもしだ てつや

⑤きゅうりやメロンを守れ！黄化症状を引き起こすウイルスを見つける技術

応用研究部 原田 賢
はらた けん

⑥キュウリの新ウイルスの発生動向を探れ！～ウイルス被害の防止に向けて～

応用研究部 徳田 遼佑
とくだ りょうすけ